

(様式1)

1 自己評価及び外部評価結果

作成日 令和 3 年 11 月 4 日

【事業所概要（事業所記入）】

| | | | |
|---------|--|-----------|--|
| 事業所番号 | 3471503692 | | |
| 法人名 | 有限会社 どんぐり村 | | |
| 事業所名 | グループホーム どんぐり村 | | |
| 所在地 | 〒729-0111 広島県福山市今津町1456-1 (電話) 084-933-6138 | | |
| 自己評価作成日 | 令和3年10月6日 | 評価結果市町受理日 | |

※ 事業所の基本情報は、介護サービス情報の公表制度のホームページで閲覧してください。

| | |
|-------------|---|
| 基本情報リンク先URL | https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/34/index.php?action=kouhyou_detail_022_kihon=true&JigyoNoCd=3471503692-00&ServiceCd=320 |
|-------------|---|

【評価機関概要（評価機関記入）】

| | |
|-------|----------------------|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人 FOOT&WORK |
| 所在地 | 広島県安芸郡海田町堀川町 1 番 8 号 |
| 訪問調査日 | 令和 3 年 11 月 4 日 (木) |

【事業所が特に力を入れている点、アピールしたい点（事業所記入）】

地域との絆を大切に「ゆっくり・楽しく・自分らしく」をモットーに、ひとりひとりに合わせたケアを行い、ご本人・ご家族様とのコミュニケーションを大切にしながら笑顔で一緒に過ごせるよう心掛けています。
また、ご本人、ご家族様のご希望があれば、看取り介護も行っています。

【外部評価で確認した事業所の優れている点・工夫点（評価機関記入）】

グループホームどんぐり村は、地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念「ゆっくり・楽しく・自分らしく」を作り、事業所内に掲示し、職員は出勤時に目を通して、共有して実践にっなげている。又、利用者の表情や仕草、言動から得られた気づきを職員間で共有し、検討を繰り返す事で暮らし方の希望や思いの把握に努め、利用者に寄り添ったケアに取り組んでいる。事業所前は、地域の方が散歩に訪れる河川敷が有り、利用者も外気浴と日光浴を兼ねて散歩に出かけ、地域の方と交流している。コロナ禍以前は、河川敷で四季の花々や桜の花が咲く頃には、弁当を持参して花見を楽しんでいた。コロナ禍にあって、外出や面会、家族との外出が制限される中、携帯や電話で連絡したり、「どんぐり便り」を送付し、利用者の現状を細目に家族に伝え、医師・看護師の指導の下、県内外の家族との個別の面会方法を工夫し、柔軟な対応で、馴染みの人との関係が途切れないように支援に努めている。

グループホーム どんぐり村

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------|------|--|---|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | 1 | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている。 | 職員会議や日々のケアの話し合いの際に、理念を掘り下げて職員全体で話し合い、一人ひとりであった具体的なケアについて意見の統一を図っている。 | 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念「ゆっくり・楽しく・自分らしく」を作り、事業所内に掲示し、職員は出勤時に目を通して確認している。職員会議で理念について確認して共有し、日々、実践する中では、「利用者の個性を捉えた対応をしているか」を話し合い、共有して実践につなげている。 | |
| 2 | 2 | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している。 | 地域住民の一員として町内の行事に参加させてもらっている。河川敷の清掃(年3回) コロナ禍以前はふれあいサロンの参加(週1回)をしていた。また、散歩時、挨拶や地域の方と話等したりして交流している。 | 町内会に加入しており、年3回の地域の清掃に代表者が参加して、情報交換して交流している。コロナ禍の中、地域行事の盆踊りや秋祭り(神輿・小学生の亥の子)等は中止となり、地域の人との交流の場が少なくなっている。地域代表や民生委員の方が訪問され、町内の様子を知らせてくれ交流している。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている。 | 実習生の受け入れを行っていましたが、学校がやめられたため、現在は受け入れを行っていません。 | | |
| 4 | 3 | ○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている。 | コロナ禍以前は参加を呼びかけ、日程調整をしながら運営推進会議を行い、当施設の現況をお伝えし、意見交流しています。現在は中止中。 | 運営推進会議は、2ヶ月に1回、地域包括支援センター職員・民生委員・地域代表者・社長・管理者・職員が参加し、開催している。今年度はコロナ禍の為、参加者一人ひとりに電話や面会で意見を聞き、事業所で職員のみで、利用者の状況や活動報告、インシデント、アクシデント報告、感染症対策、職員の研修報告、職員の対応、健康管理等の結果を会議で検討し、それらの意見を更なるサービス向上に活かしている。 | |
| 5 | 4 | ○市町との連携 市町担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実績やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取組んでいる。 | お話しする機会があれば、その都度当施設の現状をお伝えしています。また、困った時や相談したい時など、市役所介護保険課へ行っています。 | 市担当者とは、コロナ禍以前は、運営推進会議時や電話、介護保険申請時に直接出向いて、情報交換や感染症対策について相談をし、助言を得る等していたが、今年度は、郵送・電話・FAX・メール等で情報交換し、協力関係を築くように取り組んでいる。地域包括支援センター職員とは、電話で情報交換を行い、連携を図っている。 | |
| 6 | 5 | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | 身体拘束に関する内部研修を年2回行っています。また、新たに職員が入った場合にも同様の研修を行っています。職員会議で、気づかないうちに言葉を遮ったり、気持ちを抑えつけたケアをしていないか確認しています。身体的拘束等の適正化のための指針を制定し、各職員が身体拘束をしないケアに取り組んでいます。 | 職員は「身体拘束の適正化に関する指針」を基に、年に1回、内部研修で身体拘束及び虐待防止(スピーチロック、ドラックロック、フィジカルロック)について学ぶと共に、「身体的拘束等適正化対策検討委員会」を3ヶ月毎に開催し、事例等で学び、身体拘束と虐待の内容や弊害について正しく理解している。外出したい利用者があれば職員と一緒に外へ出かけて、気分転換を図る等、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。 | |
| 7 | | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃ごされることがないように注意を払い、防止に努めている。 | 年に1回虐待防止の施設内研修を行っている。また、虐待防止検討委員会を3か月に1回実施し、虐待発生の防止や早期発見につながるよう努めている。また普段のケアの中で職員自身が精神的に追い詰められていないかなど観察し、気になるときは話をするようにしている。 | | |

グループホーム どんぐり村

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している。 | 成年後見制度を利用している入所者がおり、必要な知識を身につけて活用できるよう取り組んでいます。また、後見人と連絡を取り合いご本人に必要な支援を提供できるようにしている。 | | |
| 9 | | 契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている。 | 契約の締結時、解約または改定時、利用者、その家族の方と十分な話し合いを行い、理解と了解を得ています。 | | |
| 10 | 6 | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている。 | 本人、または家族から要望ができれば、その都度可能な限り対応しています。 | 面会は新型コロナウイルス感染症の防止の為、面会制限をしているが、1階の玄関でボード越しで実施している。発生状況によっては面会を禁止し、感染予防に努めている。管理者や職員は、毎月の事業所だより「どんぐり村便り」に合わせて、利用者の日常の様子を伝え、遠方の家族とは電話等で支援し、家族が意見を言いやすい雰囲気を作っている。それらの意見を会議で検討し、運営に反映している。 | |
| 11 | 7 | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている。 | 職員会議での意見の収集や日頃からコミュニケーションを図るよう心掛けており、運営に反映するよう取り組んでいる | 代表者・管理者は職員会議やカンファレンス、係り業務(勉強会、メール、行事計画等)の中で聞く他、随時、面談をして職員の意見や提案を聞いている。代表者・管理者は職員とのコミュニケーションに気を配り、職員の小さな変化に気付いた時には、代表者・管理者の方から話しかけて、話し易い雰囲気作りに努めている。職員の提案や意見は検討し、運営に反映している。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている。 | 勤務状況等により昇給、ボーナスの支給がある。また、向上心をもって働けるよう介護福祉士手当等定めている。職員の疲労やストレス要因について気を配り、必要時は勤務調整を実施している。また勤務時間中、気分転換できるよう、個室の休憩室を確保している。また職員同士の人間関係を把握するよう努めている。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている。 | 必要と思われる研修には出来るだけ参加できるように計画し、調整しています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている。 | 外部の研修に参加した際に、他事業所職員と交流する機会を持つことがある。また、他の施設の事業所内研修などに参加する機会を持つ。 | | |

グループホーム どんぐり村

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|-----------------------------|------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| II 安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | | |
| 15 | | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 | 事前面談で可能であれば自宅に訪問させていただき、生活状態を把握するよう努めたり、他施設利用をされていた方は、慣れ親しんだ職員さんと一緒に面談させていただき、ご本人との十分な話し合いにより要望を聞いたり不安を取り除くよう努めている。 | | |
| 16 | | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている。 | これまでの家族の苦労やサービス利用状況、経緯などについてゆっくり話を聞き、グループホームとしてどのような対応ができるか家族と事前に話し合いをしている。 | | |
| 17 | | ○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている。 | 利用開始前に職員が本人に会いに行ったり、サービスの利用開始時、ご本人の気持ちや、今出来ることと出来ないことを見極め、他のサービスが必要であれば対応するようにしています。 | | |
| 18 | | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている。 | 出来る作業は職員と一緒にやって頂き、時には入居者から知恵を借りたりすることで、介護される人、する人の関係にならないように努めている。 | | |
| 19 | | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている。 | 本人の日頃の状態を報告、相談するとともに、来訪時はご本人と家族の潤滑油になるよう心掛けている。また外出などご家族の力をかりながらご本人の気分転換などの援助を協力していただいている。コロナ禍のため現在は中止中。 | | |
| 20 | 8 | ○馴染みの人や場所との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている。 | ご本人が会いたい方がおられる場合は、家族に協力していただき、面会にきていただけるよう調整したり、ご本人が行きたい場所にドライブでお連れすることもある。 | 家族や知人の面会が有り、又、兄弟の家の近くに車で連れて行っている。家族や利用者から、以前の生活の事や暮らしぶりを聞き、利用者の今に活かせるように努めている。遠方の親戚からや知人からの手紙や電話があり、馴染みの人や場所との関係が途切れないように支援に努めている。 | |
| 21 | | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている。 | 個別に話を聞いたり、相談に乗ったり、利用者同士の関係を把握し、楽しく過ごせる場面作りをするなど利用者同士の関係がうまくいくように職員が調整役となって支援している。利用者同士の関係性について情報連携し、すべての職員が共有できるようにしている。 | | |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている。 | 問い合わせが入ればその都度対応し、ご家族からは近況を伺っています。 | | |

グループホーム どんぐり村

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅲ その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | 9 | ○思いやりや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している。 | 基本的には本人の意思決定を確認しながら関わるようにしている。言語で表現できない利用者には、表情や行動から希望を把握するように努めている。 | 入居時には、フェイスシートやアセスメントシートを活用して、本人や家族から、利用者の生活歴や情報(得意な事、本人の自慢、強く印象に残っている事、やってみたい事、好きな色、歌、好きな物、嫌いな物)、家族の記録による基本情報の中から思いや意向の把握をしている。日々の関わりの中で、利用者の行動や発した言葉、繰り返す言葉、表情、笑顔が見られた場面、得意な事、やってみたいと思っている事を業務日誌に細かく記録し、思いや意向の把握に努めている。困難な場合は職員間で話し合い、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている。 | 本人、家族、これまでのサービス利用先から、生活歴、経緯などを聞き把握に努めている。利用が開始した後でも、疑問に思った時には、その都度情報を知っている関係者に尋ねるようにしている。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている。 | 利用者一人ひとりの生活リズムを理解したり、生活面や心理面の状態を把握し、出来ることに注目し、その利用者の全体を把握するように努めている。 | | |
| 26 | 10 | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している。 | 本人、家族には日頃の関わりの中で思いや意見を聞きプランに反映させるようにしている。また、職員会議などでスタッフ間で話し合いを持ち、現況に即したケアプランの作成に努めている。 | 計画作成担当者と職員が中心になって、毎月1回会議の中で、本人や家族の思いや意向、主治医、看護師、職員の意見を参考に話し合い、介護計画を作成している。毎月モニタリングを実施し、6ヶ月毎にカンファレンスを開催して、介護計画を見直している。利用者の状態や家族の要望に変化があればその都度見直し、現状に即した介護計画を作成している。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている。 | 個別記録をとり、さらに連絡帳に書くことで気づきや工夫などをすべての職員が把握しやすくしている。実践した工夫の評価なども職員会議で検討するようにしている。その内容を介護計画の見直しに活かしている。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる。 | 本人、家族には日頃の関わりの中での気づき、思いや意見を聞き、個々で必要と思われる対応がある場合は、施設で人員などで可能な場合は対応するようにしている。 | | |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している。 | 地域のカフェに参加し、馴染みの方に会うことで、昔を懐かしむ方がおられる。また、今までのかかりつけの病院を受診し、その職員や患者と会話することで、今までのご本人のコミュニティを継続できる地域とのつながりを実施している。 | | |
| 30 | 11 | ○かかりつけ医の受診診断 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している。 | ご家族の承諾を得て提携先の医療機関の定期的な往診、緊急時の往診を依頼している。また、今まで通院していた病院への受診を希望される場合は、医療的な情報を提示し適切に医療を受けられるよう支援している。本人や家族が搬送希望の病院がある場合はお聞きし、連携病院の医師に伝えるようにしている。 | 本人、家族の納得を得て、協力医療機関をかかりつけ医とし、月1回の往診がある。他科受診は、職員が支援している。歯科は、随時要望があれば往診がある。受診結果は業務日誌に記録して、職員間で共有し、家族には電話で報告している。24時間オンコール体制にあり、休日、夜間、緊急時には、事業所の看護師と協力医療機関と連携して、適切な医療を受けられるように支援している。 | |

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------------|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 31 | | ○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している。 | 非常勤の看護師がおり、介護職員からの情報、記録やデータからの情報をもとに、異常の早期発見に努め、かかりつけ医や専門医への相談を速やかに行っている。また、個々の利用者の観察の視点、処置方法などを適宜介護職員へ伝え一貫したケアが提供できるよう努めている。 | | |
| 32 | | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院になった場合、かかりつけ医の紹介状に加え、施設での日常生活の状態や入院にいたった経緯などのサマリーの提出をしている。また、退院の場合、医療機関の地域連携室などへ細かい現状を確認したり退院後に注意すべき点などの情報を提供してもらいスムーズに施設の生活に戻れるよう努めている。 | | |
| 33 | 12 | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる。 | 看取りに関しては、状態の変化を見ながら、ご家族に現状を伝え、かかりつけ医と共に方針を確認している。できる限りご本人・ご家族の意向に沿えるよう、希望や要望を確認している。急変時には24時間体制でかかりつけ医の往診を受けれる体制をとっている。 | 重度化した場合に、事業所で出来る対応を契約時に家族に説明をし、同意を得ている。実際に重度化した場合は、早い段階から主治医が家族に病状を伝え、本人や家族の意向をふまえて、家族、関係者と話し合い、入院や他施設への移設も含めて方針を決めて共有し、チームで支援に取り組んでいる。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている。 | 急変や事故発生時の対応は、医療的なものであれば看護師への連絡(動画通話利用)等で対応している。また事故発生時も社長や管理者への連絡体制は整えているが定期的な訓練がしていない。 | | |
| 35 | 13 | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている。 | 年に2回防災訓練年に1回の水害訓練を実施している。そのうち1回は地域の消防を連携して実施している(コロナ禍は中止中)。公共の避難所への避難が困難な場合を想定し、近所の寺院などに協力依頼をしている。 | 避難訓練は年2回実施しており、消火、通報、避難訓練、避難経路の確認、風水害を想定して、利用者の一部も参加し行っている。内1回は、消防署の協力を得て通報訓練を行っていたが、コロナ禍の為中止し、事業所のみで実施している。最近、実際に事業所前の河川が水位を増し、避難を実施している。 | |
| IV その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | 14 | ○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている。 | 利用者への言葉かけ時の注意点を職員会議の際、社長から定期的に指導、また接遇の研修を年に5回実施することで、正確な知識を得るようにしている。 | 職員は研修で接遇について学び、利用者の人格の尊重やプライバシーの確保、守秘義務の遵守について理解して、利用者の誇りやプライバシーを損ねない対応に努めている。気になる所があれば、管理者が指導したり、職員同士で注意し合っている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている。 | コミュニケーションをとる中で、気持ちや希望を引き出したり、コミュニケーションが困難な利用者にはイエスやノーで答えやすいような質問をすることで自己決定できるように努めている。必ず本人の希望を聞くように努めている。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している。 | 日常生活の大まかな日程は決めさせていただいてはいるが、個々の利用者の体調や気分などに合わせて、できる限りご本人のペースに沿って支援している。 | | |

グループホーム どんぐり村

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|--|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している。 | 介助の必要な方は直接ご本人が着たい服を選んでいただけるよう一緒に衣装選びを実施している。希望があればご自身の選ばれた美容院や理容院に行っていただき、外出が困難な方には近所の美容院の出張サービスを利用している。 | | |
| 40 | 15 | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている。 | 手伝えたいといってくる利用者に、準備や片付けを手伝っていただいている。食事は宅配サービスの献立を使用しているが庭でとれた野菜や近所の方の差し入れなどもあり、宅配サービス以外のメニューも取り入れている。 | 3食とも宅配サービスを利用し、職員は利用者に応じた形状の工夫(刻み食、ミキサー食、とろみ食等)を提供している。近所の方から頂いた野菜等も、一緒に調理して食している。利用者はテーブル拭きやお盆拭き、洗った食器を拭く等、出来る事を職員と一緒にしている。おやつ作りは、スポンジにクリームでデコレーションしたり、さつま芋をふかして作っている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている。 | 食事量、水分量は1日の状態がすぐに把握できるよう表を利用しタイムリーな情報を職員で共有できるようにしている。体重も表を利用し変化を把握しやすくしたり、看護師が血液データの栄養状態と照らし合わせ、医師に相談し、必要であれば高カロリー栄養剤を処方してもらっている | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている。 | 介助の必要な利用者には、介助にて口腔ケアを実施している、また、自己にて実施できる利用者には、声かけをすることで口腔ケアをしていただくよう努めている。必要時歯科の受診をし、必要なケアの指示を仰いでいる。 | | |
| 43 | 16 | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている。 | 排尿の記録を参考にしながら、次回の排尿時間を予想したり、排泄前の不穏などを早く察知し、トイレ誘導するなどしている。夜間はトイレまで間に合わない利用者にはポータブルトイレを使用したり、尿意がない利用者が腹圧をかけて排泄ができるよう安楽な姿勢でトイレに座れる工夫をしている。 | 排泄チェック表を参考にし、利用者一人ひとりの排泄パターンを把握し、声掛けをしている。本人の意向を尊重しながら、排泄の失敗時、羞恥心への配慮を忘れず声かけを工夫し、トイレでの排泄や、排泄の自立に向けた支援を行っている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる。 | 水分の摂取を促したり、便秘になりやすい利用者へは腹部温罨法をするなど対応しているが、大多数の利用者が緩下剤の利用をしているのは実情である。 | | |
| 45 | 17 | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々に応じた入浴の支援をしている。 | 基本的には曜日を決めさせていただいている。ただ、体調の悪化や入浴の拒否などがあれば、清拭や足浴を実施したり、曜日を変えたりして極力ご本人が入りたいと思える日に声かけを行って気持ちよく入浴していただけるように努めている。 | 入浴は週2回で、利用者の希望する時間、順番、湯加減等、入浴が楽しみになるよう支援している。利用者の体調や状況に応じて、随時、清拭や足浴、シャワー浴、機械浴等の対応をしている。入浴したくない利用者には、無理強いをせず、声かけの工夫や、職員の交代等の工夫をする等、対応をしている。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々々の状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している。 | 利用者の就寝したいタイミングで寝ていただいている。昼寝などご本人が希望されれば、自室にて休んでいただいたり、自分で訴えることが難しい場合、その日の体調などを観察し、こちらから声かけし、希望されれば休んでいただいている。冬場には四肢冷感が強い利用者には足浴を入眠前に実施している | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている。 | 薬の説明はすぐに見れるようファイルにして事務所に置いている。副作用の注意が必要な薬を内服している時や内服薬が変更した場合などは連絡ノートに記載し職員間で情報を共有している。 | | |

グループホーム どんぐり村

| 自己評価 | 外部評価 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------|------|---|---|---|-------------------|
| | | | 実施状況 | 実施状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている。 | 声かけし希望される利用者は、花壇や野菜づくり、血洗い、洗濯たたみなどに参加されている。カラオケに参加していただいたり、細かい作業が好きな方には塗り絵などを提供している。また好きな飲み物がある利用者には家族が承諾されれば、提供している。 | | |
| 49 | 18 | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している。 | 外に出たいといわれる場合は、できる限り対応し施設周辺の散歩に行っている。また遠方などの外出の希望がある場合は家族の方に協力していただき、外出をしている。 | コロナ禍で面会や外出ができない状況下で、利用者が喜びを感じられるよう、事業所内のテラスを拡充して、寛げる様にしている。施設周辺や事業所前の河川敷の花見や、四季の花々を感じながら散歩し、日光浴・外気浴を行って、地域の方と挨拶を交わし交流している。又、利用者にストレスが溜まらない様に、ドライブで自宅まで出かけて支援している。家族の協力を得て、外出できるように支援している。 | |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している。 | 基本的には金銭の持ち込みはないが、希望されれば持ち込んでいただき、防犯面で事務所の金庫に預らせていただいている利用者もいる。基本的には希望されたものを現物支給しているのが現状。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている。 | 用事がある場合は、直接電話していただくこともある。ただご家族が頻回の電話を拒否される場合もあり、様子をみながら電話していただくこともある。 | | |
| 52 | 19 | ○居心地の良い共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 共用の空間は、温湿度計を設置し、快適に過ごしていただけるように空調を調整している。日の強くあたる窓にはすだれやブラインドを設置したりすることで刺激の強い光を調節している。季節を感じられるような花を飾ったり、利用者が作成した作品を展示することで居心地のよさを提供している。 | 共用の空間は、大きな窓からの陽ざしで明るく、窓辺には観葉植物などを飾っている。テレビの前のソファは、利用者が落ち着いて楽しめるよう、配置に工夫している。食堂と台所は一体的な造りで、全体を見渡しやすく、調理の音や匂いが漂う、生活感のある心地よい空間となっている。壁面には、利用者と一緒に作った壁面飾りで、季節感を演出している。温度や湿度、換気、消毒に配慮して、居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている。 | 居室に戻って一人で過ごされたり、居間はテレビをみたり比較的賑やかな空間であるが台所のテーブルは比較的静かなので新聞を読まれたり、大きな窓の前で一人で日向ぼっこされる利用者もいる。テラスもあるため、外の空気を吸いたくなくなった方は自由にいただいている。 | | |
| 54 | 20 | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている。 | 居室に好きな動物の写真を飾られたり、ご家族の写真を飾られたりされている利用者もおられる。庭でとった花を花瓶にさしておいておられる利用者もいる。 | テレビ・ラジオ・ラジカセ・ぬいぐるみ・観葉植物・衣装ケース・パイプハンガー等、使い慣れた物や好みの物を持ち込んでいる他、家族写真・猫の写真集・位牌等を飾って、本人が居心地よく過ごせるように工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している。 | トイレの場所が分からない利用者には、居室から出たら目に入るところにトイレの案内矢印をつけたり、自分の居室がわからなくなる利用者に対しては部屋の前に名前を大きく書いたものを張ったりしている。トイレなどで足を置く位置が分かりにくい利用者に対しては、テープで位置を示すようにしている。 | | |

| V アウトカム項目 | | | |
|-----------|---------------------------------------|---|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる。 | ○ | ①ほぼ全ての利用者の ②利用者の3分の2くらいの ③利用者の3分の1くらいの ④ほとんど掴んでいない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある | ○ | ①毎日ある ②数日に1回程度ある ③たまにある ④ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外への行きたいところへ出かけている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごさせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 62 | 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |

グループホーム どんぐり村

| | | | |
|----|---|---|---|
| 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています | ○ | ①ほぼ全ての家族と ②家族の3分の2くらいと ③家族の3分の1くらいと ④ほとんどできていない |
| 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている | ○ | ①ほぼ毎日のように ②数日に1回程度 ③たまに ④ほとんどない |
| 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係やとのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている | ○ | ①大いに増えている ②少しずつ増えている ③あまり増えていない ④全くない |
| 66 | 職員は、生き生きと働いている | ○ | ①ほぼ全ての職員が ②職員の3分の2くらいが ③職員の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての利用者が ②利用者の3分の2くらいが ③利用者の3分の1くらいが ④ほとんどいない |
| 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | ①ほぼ全ての家族等が ②家族等の3分の2くらいが ③家族等の3分の1くらいが ④ほとんどできていない |

(様式2)

2 目標達成計画

事業所名 グループホーム どんぐり村

作成日 令和 3 年 11 月 5 日

【目標達成計画】

| 優先順位 | 項目番号 | 現状における問題点, 課題 | 目標 | 目標達成に向けた具体的な取組み内容 | 目標達成に要する期間 |
|------|------|---|-----------------------------------|--|------------|
| 1 | 44 | 便秘の予防が十分でなく薬に頼っている部分が多い | 現状より緩下剤の使用頻度を減らす | 自分で動ける利用者には、ご本人が楽しくできるような散歩や体操など取り入れる。 | 1年 |
| 2 | 67 | 介護度の高い利用者介護者が係ることが多いため介護度の低い利用者への関わりが少なくなっている | ケアの仕方等工夫し、極力すべての利用者に関われるようチームで関わる | 全体の雰囲気把握し、人員配分をするなどできるだけ満遍なく関われるようにする。 | 1年 |
| 3 | | | | | |
| 4 | | | | | |
| 5 | | | | | |
| 6 | | | | | |
| 7 | | | | | |

注1) 項目番号欄には、自己評価項目の番号を記入すること。

注2) 項目数が足りない場合は、行を追加すること。